

◇立派な門松ができました◇

12月18日（日）におやじ学級・第7回家庭教育学級で「門松づくり」を行いました。竹の長さを組み合わせたり、縄の



結び方を試行錯誤したりと知恵を出し合いながら会話もはずみました。寒風が吹く中でしたが、例年以上に多くの方に御協力をいただき立派な門松が完成しました。竹を提供していただいた吉留さん、竹を美しくカットしてくださった深迫さん、飲み物・パンの準備をしてくださった新村さん、そして早朝から参加してくださった保護者の皆さん、本当にありがとうございました。また、来年も多くの皆さんの参加をお待ちしています。



◇手作りの雑巾をいただきました◇

12月17日（金）に松山町老人クラブ連合会（上尾野見）の皆様から、「学校のために使ってください」とたくさんの雑巾をいただきました。手作りの雑巾のあたたかみを感じると共に新しい雑巾をうれしそうに使って一生懸命掃除をする児童の姿に地域の皆様の思いが溢れているようで大変うれしく感謝することでした。雑巾がボロボロになるまで大事に使わせていただきます。



◇「子どもの自尊感情を育むには？」◇

1月14日（金）に第8回家庭教育学級で保護者の皆さんと人権について学ぶ機会を持ちました。今回は、鹿児島県教育庁人権・同和教育課の黒川周一指導主事をお招きして「子どもの自尊感情を育むには？」というテーマで講演と演習を行いました。講演の中で、自尊感情は自分のよいところも悪いところもあるがままに受け入

れ、自分を大切な存在として尊重する「基本的自尊感情」と他者からほめられたり、成功体験を積んだりすることによって高まる「社会的自尊感情」があり、生まれて間もない頃に出会う、信頼する大人（保護者）から育てられる中で、「自分はこの世に生まれてよかった」「自分は愛されている」という安心が生まれ、それが「基本的自尊感情」を育むということでした。また、一緒に泣いたり、笑ったり、嬉しがったり、涙を流したりするなど、信頼する誰かとの間で行われる「体験」と、その時その場で沸き起こる「感情」を共有することが大事だと言うことも教わりました。最後に、子どもと向き合うときのポイントは



- 多様な価値観があることをわかった上で接する。
- かけがえのない存在であることを伝える。
- よいところは積極的にほめ、叱るべきところは叱る。
- 規則正しい生活習慣を身につけさせる。

ことであり、「できるのが当たり前」ではなく、「当たり前のように頑張っている」ことが素晴らしい。子ども一人ひとりのよさを認め、励まし、伸ばす関わりが大切であると締めくくられました。自尊感情を育むことは”失敗しても立ちなおる力を育む”ことであるという力強いメッセージをいただき、大変勉強になりました。

◇新型コロナウイルス感染症対策◇

本校では、感染症対策として

- 石けんを用いた手洗いと消毒、うがいの徹底、マスク着用
- 給食事の黙食
- 常時換気
- 給食のお盆、共用部分の定期的な消毒等の取組を行っています。御家庭でも引き続き感染症対策を御願いするとともに、感染が明らかになった場合の行動履歴を示すことができるよう記録の準備を進めてくださいますようお願いいたします。